



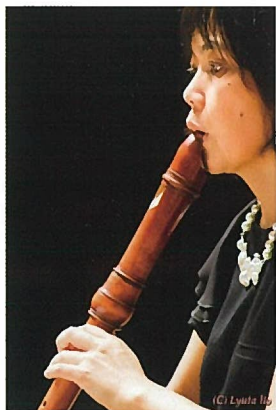
ヴァルター・ファンハウヴェ
Walter van Hauwe

オランダの世界的リコーダー奏者ヴァルター・ファンハウヴェはソリストとして、またクワドロ・オテール、リトルコンソートのメンバーとしてリコーダー界で長年にわたり君臨してきた。1969年、クワドロ・オテールのレコーディングではエディンソン賞を受賞。フランス・ブリュッヘン、グスタフ・レオンハルト、ニコラウス・アーノンクールらと多くのコンサート、レコーディングを行った。1971年にはブリュッヘン、ケース・ブッケと共に実験的リコーダーアンサンブル"サワークリーム"を開始し、話題をさらった。現代音楽の分野にも働きかけ、フランコ・ドナトーニ、伊伊桑らがリコーダーのために作曲した。即興にも大きな関心を持ち、マリンバ奏者の安倍圭子や現代即興の"マールテン・アルテナアンサンブル"や、劇団"ホランダリア"(リーダーのパウル・クック)と共演。2001~2005年にかけて、サイトウ・キネンフェスティバル(松本)に招かれ、バロック作品(バッハ、ラモ、パーセル等)の音楽監督を担当。1971年よりアムステルダム音楽院で教鞭をとり、非常に画期的

な教育プログラムを展開、世界中のリコーダー専門生をアムステルダムに集めた。色々な楽器による現代音楽と古楽解釈の"コーチ"としてアメリカ、ヨーロッパ、台湾、オーストラリアを訪れ、日本では今井信子、小澤征爾らと仕事をした。『現代リコーダー教本』(全3巻ショット)は各国に翻訳された。(日本ショット、大竹尚之訳)

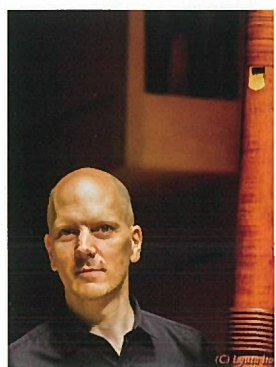
1988年より『リコーダーのための現代音楽カタログ』の作成を始め、そこに収められた曲数はすでに1万曲を越える。また、『リコーダーのための歴史的レパートリーのカatalog』では、16世紀から現代までのリコーダーのオリジナル作品が95%以上カバーされている。(http://www.blokfluit.org.) 2002年、オランダの名誉賞"ベルナルド皇太子賞"を受賞。彼のCD録音は'Das Alte Werk'(テレフンケン)、ヴァンガード、コロムビア・デンオン、RCA、CBS、'アタック'、チャンネルクラシックス/メックで聴くことができる。

田中せい子 Seiko Tanaka



日本のリコーダー奏者の代表格としてグローバルな活動を展開している。12歳よりリコーダーを専攻し、上野学園中学、高校リコーダー科を経て、同大学器楽科を卒業。島田暁子、多田逸郎、山岡重治各氏に師事。1986年にアムステルダム、スヴェーリンク音楽院に留学、ヴァルター・ファンハウヴェに師事。教授資格および演奏家ディプロマを取得し1993年に同音楽院を卒業。オランダ留学中よりヨーロッパ及び日本で演奏活動を開始し、フランドル音楽祭(ブルージュ)、ホランドフェスティバル(ユトレヒト)等に参加。これまでにヴァルター・ファンハウヴェ、リモージュ・バロックアンサンブル(C.コアン主宰)、ディヴィーナ・アルモニア(L.ギエルミ主宰)、マテウス・バロックアンサンブル(M.レオンハルト主宰)、アンサンブル・エリマ(G.ガリード主宰)らと共演。教育活動も活発に行い、上野学園大学、ヴァレーゼ音楽院、ミラノ音楽院を経て、現在は東京の"スタジオ・フォンテガーラ"主宰。1998年には著書『リコーダーのタンギング』(アントレ)を出版。CD録音をアントレ("デュオ"レコード芸術特選盤)、パッサカイユ、マーキュリーで行う。ダニエレ・ブラジエッティと、2つのリコーダーオーケストラ"ソナトリー・デル・フォンテゴ"(東京)、"ソナトリー・デル・フォンテゴミラノ・リコーダーオーケストラ"を主宰。

ダニエレ・ブラジエッティ Daniele Bragetti



ミラノ市立音楽院を1985年に卒業。ニーナ・スターンに師事。その後イタリアでケース・ブッケに師事し、1986年にアムステルダム、スヴェーリンク音楽院に入学、マライケ・ミッセンとジャンネット・ファンヴィンガーデンに師事し、1991年に同音楽院を卒業。ヨーロッパ、日本、南米でソリスト、田中せい子とのデュオ、アンサンブルやバロックオーケストラのメンバーとして多年にわたりコンサート活動を行う。これまでにリモージュバロックアンサンブル(C.コアン主宰)、ディヴィーナ・アルモニア(L.ギエルミ主宰)、アンサンブル・エリマ(G.ガリード主宰)、カベッラ・ドゥカーレ・ヴェネツィア(L.ピコッティ主宰)、アテスティス・コールス(F.M.ブレッサン主宰)、アカデミア・モンテ・レガリス(A.デマルキ)、アンサンブル・コンチェルト(R.ジーニ)に参加。CD録音をOpus111、アントレ、マーキュリー、パッサカイユにて行う。2008年、2010年にはチリのサンティアゴカトリック大学よりマスタークラス教授として招かれた。ミラノ音楽院にて教鞭をとったほか、現在ジュネーヴ高等音楽院リコーダー科、ミラノ市立音楽院のリコーダー科の教授を務める。東京およびミラノの"スタジオ・フォンテガーラ"主宰。

船山信子 Nobuko Funayama



音楽学者。専門は18世紀フランス音楽と思想。東京芸術大学および同大学院音楽研究科修士課程修了。パリ第4大学音楽学研究所博士課程に在籍(1973-74)。フランス文化芸術勲章シュヴァリエ受賞。著書に『ある「完全な音楽家」の肖像—マダム・ピュイグ=ロジェが日本に遺したもの』(編著)、『音楽フェスティバルをつくる』(共著)など。文化審議会委員(文化功労者選考分科会)(3期)、独立行政法人評価委員会委員(4期)等を歴任。現在、北区文化振興財団理事、東京文化会館運営委員等を務める。東京芸術大学講師、お茶の水女子大学講師等を歴任。昭和44年より上野学園大学で教鞭をとり、平成5年より教授、音楽学部学部長(平成10~14年)、学長(平成27~29年)を歴任。